

岡山県での拡大一因か

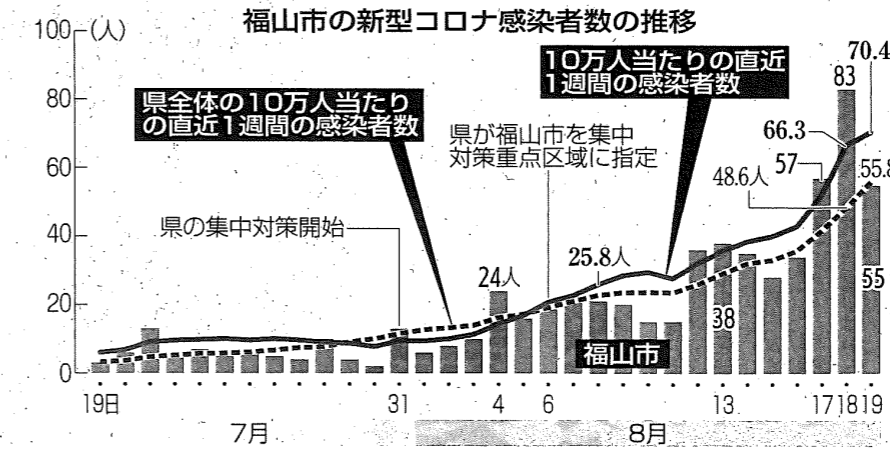
あなたの声から

福山市で新型コロナウイルスの感染者がつかつていない勢いで増えている。人口10万人当たりの感染者数は国のステージ4(爆発的感染拡大)の指標の約2.6倍となり、県内の市町で突出。「急に増えたので不安」という声が読者から届いた。同市で感染が急拡大した背景には何があるのか。感染を広げないため、身の回りでできることも整理した。(門戸隆彦)

以前に感染拡大期は、病院や企業内で濃厚接触者や接触者に感染が広がる傾向があった。今回も飲食店や美容院でのクラスター(感染者集団)は起きていて、市中感染が主流になっている。枝広直幹市長は17日の記者会見で感染経路不明の割合が増えている点などに触れ、「追跡調査による封じ込めが難しくなっている。調査自体もマンパワの限界に近づいている」と危機感を示した。

こうした状況の中、どのような点に注意すればよいのだろうか。市内の医療関係者たちは、岡山県内の感染拡大が一因とみる。「岡山県は生活圏。大阪など関西の大きな感染の波が西方向へ」とみ出しているのではないかと指摘する。

福山市内でコロナ感染急増なぜ？



県によると、18日まで直近1週間の市内の感染者は311人。人口10万人当たり66.3人。県全体の約2.6倍に上る。国が定めるステージ4の指標「25人の約2.6倍に上る。県全体の48.6人より多く、20日から新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置が適用される県内12市町でトップだ。

期間	濃厚接触者	接触者	院内施設内
2020年11月24日～21年3月30日	17%	53	30
21年3月31日～6月14日	33	64	3
21年6月15日～8月16日	34	65	1

コロナ感染最多362人

知事「外出の必要性確認を」

	18日現在	ステージ3	ステージ4
直近1週間の新規感染者数(人口10万人あたり)	48.63人	15人以上	25人以上
病床利用率	32.6%	20%以上	50%以上
療養者数(人口10万人あたり)	53.82人	20人以上	30人以上
感染経路不明の割合(直近1週間の平均)	42.7%	50%以上	50%以上

新型コロナウイルスの感染再拡大により、20日から県内で「まん延防止等重点措置」が適用されるのを前に、感染状況の悪化に歯止めがかからない。感染者数は19日、計362人と2日連続で過去最多を更新。県内の感染者は延べ1万4804人に達した。湯崎知事は「落ち着く兆しはなく、このままでは東京や沖縄のレベルまで拡大する」と危機感をあらわにし、医療崩壊を防ぐために感染防止への協力を呼びかけた。

広島市は過去最多となる10歳未満〜80歳代の2003人の感染を発表。盆休みの帰省やバーベキューなどで急拡大した可能性があるという。7月1日〜今月17日の感染者の96%が64歳以下で、中でも若年層の感染が深刻化している。

福山市は10歳未満〜70歳代の55人、呉市は10〜60歳の12人を確認した。県の発表分は10歳未満〜90歳以上の92人。内訳は、東広島市35人▽廿日市市18人▽三原市11人▽尾道市、三次市各5人▽大竹市、竹原市、海田町、府中町各3人▽江田島市、熊野町各2人▽大崎上島町、北広島町各1人だった。

県は急増の要因を、8月に入って県外からの来訪者が増加したこと、インド由来の変異ウイルス「デルタ株」の強い感染力にあるとみている。

感染の急拡大を受け、湯崎知事は緊急メッセージを発表した。現在の感染状況が続けば医療提供が困難になるとして、県民に「外出前にもう一度、必要性の確認を。買い物で入店する際は1人で。事務所への出勤ではなくテレワークの活用を」と外出半減の努力を要望。「あらゆる場面で接触を減らして」と訴えた。

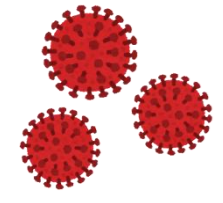
県は、18日現在で病床計700床と軽症者向けにホテル計1685室を確保し、利用率はそれぞれ38.57%と51.39%となっている。感染のピークは見通せない。

加速度的増加の傾向

広島県 前週比最大3.90倍に

広島県内で19日、362人の新型コロナウイルス感染者が発表された。303人だった18日に続き、2日連続で最多を更新した。7月18日以降の1カ月間、以降は1.26〜3.90倍に増えるなど、感染者が加速度的に積み上がっている。

19日発表の感染者は、広島市203人▽福山市55人▽東広島市35人▽廿日市市18人▽呉市12人▽三原市11人▽尾道市、三次市各5人▽竹原市、大竹市、府中町、海田町各3人▽江田島市、熊野町各2人▽北広島町、大崎上島町各1人。中等症が3人、軽症が341人、無症状が18人という。



R3.8.21
花園保育園

新型コロナ医療を巡る政府の新たな対策

正当な理由なく患者を受け入れない医療機関に対し、都道府県を通じて調査検討

自宅療養者らに対し、医師がオンラインや電話で診療する際の報酬を増額

入院できない患者を受け入れる酸素ステーションや臨時の医療施設を整備

コロナ対応で医師や看護師を派遣する医療機関への補助金を倍増

政府は、英アストラゼネカ製を16日から宣言対象地域に優先配分している。米ファイザー製の優先配分については「既に配分を終えて自治体に通知している。変更はない」と否定した。

医療者へ3回目接種準備

河野行政・規制改革相は19日、院内閣委員会の閉会中審査で、新型コロナウイルスワクチンの3回目の追加接種について、コロナ患者の治療にあたる医療従事者を対象に準備を進めると明らかにした。

米政府は、2回接種完了から8か月が過ぎた18歳以上を対象に3回目の追加接種を開始する方針だ。日本では、2月から接種が始まっており、秋頃から8か月経過する人が出始める見通しだ。河野氏は「医療従事者にプースター接種が必要だとすれば、対応できるような準備はしている」と述べた。加藤官房長官は19日の記者会見で、3回目の接種について、ワクチン効果の持続性や同じ種類のワクチンを接種するのかなど、情報を収集したうえで、最終判断する考えを示した。

河野太郎行政改革担当相は20日の記者会見で、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が発令されている13都府県に米モデルナ製ワクチンを優先的に配分する考えを示した。「増量を希望される地域があると思う。可能な限り、前倒しに取り組み」と述べた。具体的な数量や配分時期は明らかにしなかった。

8月園だより コロナ感染症特集 24

抑え込みへ慎重な行動を

か。市感染症対策監の田中知徳保健所長は市中での感染リスクは高いとし、「より細心の注意が必要」と強調。「帰宅後の手洗いや消毒のほか、マスク着用や3密の回避といった基本的な対策をしっかり取ってほしい」と呼び掛ける。

市医師会の児玉雅治会長は、検査でいったん陰性になった後に感染が分かるケースも多いため、「検査が陰性でも感染していない証明にはならない。何らかの症状がある人や感染者と接触した人は感染を疑いながら行動を」と訴える。

市内では今、日中や夜間の外出機会の削減に向けた取り組みが進む。市は既に主催イベントを中止。図書館やプールといった公共施設の利用も停止した。まん延防止等重点措置の対象区域となる20日から9月12日まで飲食店などに酒類の提供停止といったより踏み込んだ措置が求められ、商業施設や映画館など大規模施設の時短の要請も強化される。市は改めて飲食店や商業施設に感染対策の徹底も呼び掛けるという。

病床の逼迫の懸念も高まる中、どれだけ感染を抑え込めるかが日常を取り戻すために欠かせない。そうした意識を一人一人が高め、より慎重に行動する必要がある。

政府は、新型コロナウイルス感染の切り札とするワクチン接種に加え、医療体制の拡充も急いでいます。ただ感染はかつてない勢いで増えており、十分な受け皿を整備できるかは見通せていないようです。

また政府は、臨時医療施設として体育館やイベント会場に患者や医師、看護師を集め、効率的に対応したいとしています。その上で重症化を防ぐ抗体カクテル療法の宿泊療養施設での活用や、酸素を投与できる酸素ステーションの整備も進めるとしています。(二)

ワクチン配分 13都府県優先 政府